

## 医療崩壊を押しとどめる

～市民の医療を守る取り組み～



6月8日、スイトピアセンターで「医療シンポジウム」が開催され、200人が参加しました。パネラーとして前衆院議員のせこゆきこさんをはじめ、医師、年金生活者、そして岐阜県広域連合から、後期高齢者医療の担当者を迎え、それぞれの立場から発言がありました。4月から始まった後期高齢者医療制度は、実施されるに依りその問題性がより明らかになり、廃止の声が高まっています。自民・公明政権は見直し案を検討していますが、制度設計そのものに問題があるので、どれだけ手直しをしても問題解決にはなりません。

今国会での4野党が提出した「廃止法案」が継続審議となりましたが、秋の国会に向けて廃止の世論をより大きくしていきましょう。

シンポ終了後、大垣駅前でせこゆきこさんと、街頭宣伝を行いました。今度の総選挙で、共産党は比例代表選挙を重点にたたかいます。比例代表選挙の東海ブロックには、せこゆきこさんも立候補を予定しています。是非、国会に送り出したいものです。



↑医療シンポジウムの様子  
←せこゆきこさんと  
大垣駅前街頭宣伝

### 市田書記局長が来ます → バスで高山ツアー☆



7月20日に、日本共産党書記局長、市田忠義さんが、高山市民文化会館で講演をします。この講演会への参加のために、大垣からバスを出します。詳しくは、日本共産党西濃地区委員会(78-6865)まで、お問い合わせください。



### 知ってトクな



### 障害者控除

要介護認定を受けている人は、障害者手帳がなくても「障害者控除」が受けられる可能性があることは知っていましたか？

「要介護」と認定されている方は市役所で「障害者控除対象者認定書」を発行してもらうと、所得税27万円、住民税26万円を所得から差し引くことができ(要介護4・要介護5の特別障害者はそれぞれ40万円、30万円)、確定申告をすることで実質的に減税となります。

先日の大垣市の6月議会で関連する問題を取り上げました。保険料や税の徴収は年金の天引きでしっかり行うのに、減税につながる「障害者控除」は周知が不十分。要介護認定を受けている人全員に「障害者控除」の説明文を送るように、市に対して求めました。これに対して市は、要介護認定の更新時や新規認定時に、「障害者控除」に関する説明文を同封し、制度の周知を図る、と答弁しました。

## (6月議会一般質問より) 市民病院の医療事故について



6月議会には市民病院の医療事故による損害賠償の議案が出されました。医療事故の内容は、「手術時のミス」「抗がん剤の投薬指示ミス」「点滴操作ミス」「MESAの対策手遅れ」など、問われている内容はそれぞれ異なりますが死亡や重度の後遺症が残るというあってはならない医療過誤です。一般質問ではこの問題について取り上げました。

### インシデント・アクシデントレポート

#### …医師の報告数が絶対的に少ない

今回の事故のように、「1つの重大な障害(事故)」の背景には、29の軽度の障害があり、そしてその背景には300の障害を伴わないトラブルが存在する(ハイムリッヒの法則)といわれています。小さなミスが、医療事故につながるないようにするため、大垣市民病院では平成15年度からインシデント・アクシデントレポート等小さなミスなども報告する制度を全職種に義務付けていますが、その実態はどうか質問しました。平成18年度で1835件の報告数ですが、その大部分は看護師の報告です。医師は74件しかありませんでした。4つの医療事故の内3つは医師が関与しており、ハイムリッヒの法則からみても、医師のインシデント・アクシデントレポート数が大変少なく、医療過誤の危

険性がどれだけ内在しているかその実態がまだ十分反映されていないと感じました。

### 医師の労働実態と医師確保について

平成19年8月の岐阜県医師会報に掲載された大垣市民病院の医師の勤務状況は、「1ヶ月間に医療事故を起こしそうなことがある医師の割合は30.4%」とあり、大変過重労働になっていることがうかがえます。これについて、病院当局も医師確保に努め、平成17年度から現在までに158人から175人に増員したとのことでした。それでもまだ不足しているとのことでした。

### 看護師確保は危機的状態

看護師の労働実態については昨年の3月議会で取り上げ、「7:1の看護配置を目指す」と当局の答弁でしたが、その後の実態を質問した結果、昨年より29人少なくなっており、危機的な状態になっていることが明らかになりました。看護師の常時募集とか、採用年齢の引き上げや、院内保育所の運営日拡大など看護師確保対策を行っているということですが、このまま看護師が確保されないと看護師の労働強化はもちろん、大垣市民病院としての医療サービスが維持できるかどうか問われる問題になってきます。

### 院内感染について

今回問題になったMRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)は大病院では院内感染の首位を占めているといわれ、市民病院の院内感染防止対策について質問しました。答弁では、院内感染防止対策委員会を月1回開催し、感染の発生状況を把握のうえ、予防や対策を講じること、さらに職員の定期的な勉強会や全体研修会を行い、感染防止に努めているとい

### 今月の花 アーティチョーク



大アザミが原種の食材です。つぼみの時に調理して使うのですが、また食卓にのぼるとなると「花として楽しんで

## いよいよ結審 荒崎水害訴訟

荒崎水害訴訟は2004年8月9日岐阜地裁に提訴し5年経過しました。この間22回の口頭弁論と進行協議の文書による意見交換を経て、6月5日の公判より原告、被告の証人尋問に入っています。この日は原告の杉山さんと北沢さんの証人尋問が行われました。度重なる浸水被害の実態に、被告岐阜県側の弁護士は一言も反対尋問ができないという状況でした。証人尋問は全部で4回行われ、結審は10月23日の予定です。

原告団および荒崎水害をなくす会は、「荒崎水害訴訟に関する嘆願書」を岐阜地方裁判所に提出します。嘆願署名を集めていますので、ご協力をお願いします。

また、西濃法律事務所・友の会では、今年の「ともがき大学」で荒崎水害訴訟を取り上げ、以下の取り組みを行っています。是非、ご参加を!

- パート1…連続法廷傍聴 6/26、7/3、7/10、7/23
- パート2…荒崎水害を聞く会 8/10
- パート3…荒崎地域現地見学 9/20

#### お問い合わせ

西濃法律事務所友の会 Tel (0584) 81-5105



公判後の報告集会  
(6/5)

うことでした。今回の事例は、患者さんの自己免疫力が低下してMRSAに感染したところ、術後管理不足により血液培養検査が遅れたため敗血症を併発し死亡されたということでした。周りでのMRSAの感染はなかったということでした。